

ほうれんそう の **立枯病・根腐病** 防除に！

殺菌剤・植物成長調整剤

タチガレン[®] 粉剤 液剤

有効成分：ヒドロキシイソキサゾール
(粉剤—4.0% 液剤—30.0%)

タチガレンは三井化学アグロ(株)の登録商標です



- 苗立枯病などの土壌病害防除に！
- 発根活着促進に！
- 苗立率の向上に！



三井化学アグロ株式会社

適用病害と使用方法

タチガレン[®]粉剤・液剤は下記作物の他に、稲にも適用があります。

2012年1月10日現在

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	使用方法	本剤回数	ヒドロキシソキサゾールを含む農薬の総使用回数
てんさい	苗立枯病	250~500g/10a分の床土(約400kg)	は種前	土壌混和	1回	5回以内 (種子粉衣は1回以内、育苗土壌への混和は1回以内、灌注は3回以内)
すいか	苗立枯病	50~75g/床土50ℓ	は種時	育苗用土壌に均一に混和する。		2回以内 (育苗土壌への混和は1回以内、苗床への灌注は1回以内)
ほうれんそう	立根 枯病	40kg/10a	は種3日前~直前	全面土壌混和		1回
たばこ	舞病	5kg/10a	移植前	畦土壌表面処理	—	—

2012年1月10日現在

作物名	適用病害名 使用目的	希釈倍数(倍)	散布液量	使用時期	使用方法	本剤回数	ヒドロキシソキサゾールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	ビシウム腐敗病	1,000	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約3.0~4.0ℓ)当り0.5ℓ	出芽時~育苗期	土壌灌注	3回以内	3回以内
レタス	パーティシリウム萎凋病		250mℓ/株	定植時	株元灌注	1回	1回
すいか	苗立枯病	500~1,000	—	は種直後	1mℓ当り希釈液3ℓを苗床に土壌灌注	2回以内	2回以内 (育苗土壌への混和は1回以内、苗床への灌注は1回以内)
きゅうり	苗立枯病(フザリウム菌)(ビシウム菌)		1mℓ当り希釈液3ℓを土壌灌注	3回以内	3回以内		
メロン	苗立枯病(ビシウム菌)	500	3ℓ/mℓ	は種時	全面土壌灌注	1回	1回
ほうれんそう	苗立枯病(ビシウム菌)	500~1,000	—	は種直後	1mℓ当り希釈液3ℓを土壌灌注	1回	1回
オクラ	—	500	200mℓ/株	は種時~発芽初期	植穴または株元灌注	2回以内	2回以内
さやいんげん	白絹病	500	1ℓ/mℓ	収穫14日前まで	土壌灌注	3回以内	3回以内
さやえんどう	根腐病	500~1,000	3ℓ/mℓ	は種後および生育期ただし、は種後1~2か月後まで	は種穴または株元に土壌灌注		
実えんどう	—	500	200mℓ/株	は種後および生育期ただし、収穫30日前まで	は種穴または株元に土壌灌注		
未成熟そらまめ	—	—	—	—	—	—	—
てんさい	立枯病	500~1,000	3ℓ/mℓ	は種時~生育初期ただし、収穫120日前まで	苗床(ペーパーポット)の場合は全面灌注、直播栽培の場合は播溝灌注	5回以内 (種子粉衣は1回以内、育苗土壌への混和は1回以内、灌注は3回以内)	5回以内 (種子粉衣は1回以内、育苗土壌への混和は1回以内、灌注は3回以内)
みずな	—	500	—	は種時	土壌灌注	1回	2回以内 (挿し芽採取時の浸漬処理は1回以内、挿し芽時の土壌灌注は1回以内)
みつば	根腐病	2,000	100~300ℓ/10a	収穫14日前までただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	散布		
いちご	苗の発根促進、活着促進	1,000	—	挿し芽採取時	30分間挿し芽浸漬	2回以内	2回以内
たばこ	舞病		1.5ℓ/育苗培養土5ℓ	挿し芽時	土壌灌注		
カーネーション	立枯病	500	—	移植時および大土寄せ時	1株当り希釈液100mℓを株元灌注	2回以内	2回以内
アイリス	白絹病	1,000~2,000	—	定植時および活着後	1mℓ当り希釈液3ℓを土壌灌注	3回以内	3回以内
きく	発根促進	1,000	—	—	1mℓ当り希釈液5~10ℓを土壌灌注	6回以内	6回以内
林木(苗木)	立枯病	500~1,000	—	は種直後	1mℓ当り希釈液3ℓを苗床全面灌注	1回	1回
芝(ペントグラス)	赤焼病		—	発病初期	1mℓ当り希釈液2ℓを散布	4回以内	6回以内

ほうれんそう立枯病の防除効果

2000年 岩手県農業研究センター

品 種：アクティブ
播 種：9月29日
粉剤混和：9月26日
液剤灌注：10月1日
調 査：10月12日

	0	1	2
タチガレン [®] 粉剤 (40kg/10a)	0	0.4	0.4
タチガレン [®] 液剤 (500倍 3ℓ/m ²)	0	0.4	0.4
無 処 理	0	0.4	2.5

注意事項

- 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時的に抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意してください。
- 本剤をキャベツに使用する場合は、使用量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害(生育抑制)を生じやすいので、所定の使用量、濃度を必ず守ってください。
- 本剤をカーネーション立枯病防除に使用する場合は、定植時に所定希釈液を1mℓ当り3ℓの割合でジョロなどで均一に土壌灌注してください。さらに活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理を行なってください。
- アイリスの白絹病防除に使用する場合は定植時に所定濃度の希釈液を1mℓ当り3ℓの割合でジョロなどで均一に土壌灌注し、その後20~30日間隔で1~2回灌注処理してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

- さやえんどうの根ぐされ病防除に使用する場合は、発生後の灌注は効果がないので、予防的に播種後1週間以内に所定希釈液を1mℓ当り3ℓ灌注し、更に1~2か月後にかけて1~2回株元灌注処理してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、薬液調製時及び使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
○容器・空袋などは園場などに放置せず、適切に処理してください。 ○防除日誌を記載しましょう。

*本製品は農業用殺菌剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。

*本印刷物は2012年1月10日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

取扱い



三井化学アグロ株式会社
東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
ホームページ <http://www.mitsui-agro.com/>